

# いずみさの昔と今 第237回

## 「大坂の陣と泉州・紀北

### 榎井合戦への道①

慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は、3年後の慶長8（1603）年2月に征夷大將軍に任じられ、江戸幕府を開きます。現代の私たちから見ると、これで徳川家による全国支配が確立したようにも見えますが、実はそうではありませんでした。豊臣秀吉亡き後の大坂城には、摂津・河内・和泉65万石の大名となった豊臣秀頼と、その母淀君が健在だったのです。

家康が恐れたのは、この二人の存在だけではありません。全国の大名の中には、豊臣秀吉に大きな恩義を感じている者も多く、また豊臣家には秀吉以来の独自の人脈と莫大な財産があり、江戸幕府に対する潜在的な反対勢力を結集する核となる可能性がありました。わずか7歳の孫娘の千姫を、これもわずか10歳の秀頼に嫁がせたのは、このような事情によるものでした。

続くことをアピールするため、息子の秀忠に將軍職を譲ります。自らはわずか2年の在職でした。また秀頼に対しては、徳川の家来となるように何度も促します。

慶長19（1614）年、ついに徳川方対豊臣方の戦いが始まります。きっかけは、秀頼が京都に再建した方広寺の釣り鐘に「国家安康」という文言が入っていることについて、これを「家康」の名を分断し、呪うものであるという理由で、家康が大坂の征討を命令した、いわゆる「方広寺鐘銘事件」です。対して豊臣方は、江戸幕府に不満を持つ浪人たちが集まり、大坂城に籠城します。さすがの家康も難攻不落の大坂城を攻めあぐね、講和せざるを得なくなるのですが、講和の条件となった大坂城の堀を埋めさせ、今後の布石としました。さて、この戦いが地域社会にどのような影響を与えたのかを、考えてみます。写真の資料は、小堀政一（遠州）が佐野村の庄屋であった、藤田家と吉田家にあてた書状です。これによると、徳川方の小堀が、戦いに際して

佐野の人びとを物資輸送に動員しましたが、佐野の人びとはそれを逆用して、戦時下における村の安全を、小堀の保護を受けることによって実現しようとしていることがわかります。戦場になつてしまえば、そこに住む村人たちも命の危険にさらされます。彼らはしたたかに、それを回避する方策を講じていたのです。この小堀政一書状は、10月から開催予定のレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの特別展「大坂の陣と泉州・紀北 榎井合戦への道」にて展示します。



▲佐野村あての小堀政一（遠州）書状（個人蔵）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140  
Fax469-7141  
休館日 月曜日  
(祝日の場合は翌日)  
開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
入館料 無料

【事例1】2カ月前、インターネット通販でサンダルを注文し、代金を振り込んだが商品が届かない。サイトの情報はメールアドレスがわかるだけで、住所も電話番号もわからない。しばらくしてからサイトにアクセスしたところ、つながらない状態になっていた。

【事例2】かばん業者のサイトを見ていたら、同じ業者のアウトレットのサイトがあり、30%オフで出ていた。さらにもっと安いサイトがあったので財布を注文した。注文してから会社概要を調べてみると、代表者名も書いていなかった。代金振込口座も外国人の名義になっていて、怪しいサイトだとわかった。まだ代金は振り込んで

消費生活センターだより

見守りリー→

相談はお早めにセンターへ!!

相談受付  
午前9時～午後4時30分

南海線「泉佐野」駅前  
☎469-2240

## インターネット通販に注意しよう

ではないが、個人情報は大丈夫だろうか。

【解説】家にいながら買い物ができる、手軽で便利なはずのインターネット通販ですが、トラブルが多発しています。実際に店頭で商品を見るわけではないので、画面上の情報がすべてです。はじめからだまそうとしてあるサイトもあり、一定期間が過ぎると消えてしまっていることもあります。

実際に商品を送つてきても注文したのではなく、全く価値のない偽物や不良品の場合があつたり、正規のサイトを見ているも、偽サイトに誘導される場合があつたりします。また正規のサイトをコピーしているため、一見ただけでは見分けがつかない「なりすましサイト」もあります。正規のサイトとURLや電話番号が一致しているか確認する必要があります。

極端な割引、また振込口座の名義が業者の代表者名と異なる個人名や外国人名義の場合も要注意です。通信販売サイトを運営する場合、特定商取引法により、氏名または名称、所在地、電話番号などの記載が義務付けられています。

注文する前に業者の情報を確認し、疑わしい場合は利用をやめましょう。